

子宮頸がんワクチン助成のお知らせ

町では、子宮頸がんワクチンの予防効果の最も高いといわれている中学校1年～3年女子に、接種費用の全額助成を行います。

●対象者 中学校1年～3年女子
※現3年生は、平成24年3月末までに接種を受けた方を助成します。

●助成額 接種料金を町が全額助成します。

●接種スケジュール
※半年以内に3回の接種が必要です。

- ① 初回接種
- ② 2回目(初回接種から1ヵ月後)
- ③ 3回目(初回接種から6ヵ月後)

●委託医療機関

※下記医療機関以外での接種は助成対象になりませんのでご了承ください。

※なお、23年4月以降は医療機関を拡大する見込みです。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ◎潮医院(☎64-2028) | ◎法勝寺内科クリニック(☎66-5858) |
| ◎ひろかね内科・循環器内科クリニック(☎39-6115) | |
| ◎西伯病院 小児科(☎66-2211) | ◎森内科医院(☎66-2120) |

●医療機関にお持ちいただく物

- ①母子健康手帳
- ②子宮頸がん予防ワクチン予診票(個人通知をしています。)



子宮頸がん予防ワクチンとは？

- ◆近年、20～30歳代の若い女性に子宮頸がんの発生が急増しています。
- ◆子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染によって起こります。
- ◆子宮頸がん予防ワクチンは、HPV 16型と18型に起因する子宮頸がんの発生を防ぎますが、25～45%はその他HPVの型が原因といわれていますので、すべての子宮頸がんを予防する事はできません。
- ◆すでに感染した発がん性HPVを排除したり、子宮頸がんを治療する働きはありません。
- ◆接種後の副反応は、注射部位の症状(痛み、発赤、腫れなど)、全身性の症状(疲労、頭痛、胃腸症状、発熱、発疹)が報告されています。また、失神、意識消失の報告もあります。
- ◆現時点では、予防接種法に基づかない任意の予防接種です。健康被害が発生した場合は、『医薬品副作用被害救済制度』により治療費等が受けられる場合があります。

※子宮頸がん予防には、20歳になったらがん検診を受けましょう

ワクチンで予防できない発がん性HPVもあります。細胞診検査で前がん病変や初期のがんを発見できるため、20歳になったら定期的な検診を受けるようにしましょう。